「親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール」

三行詩コンクール

岩手県ＰＴＡ三行詩コンクール審査会が９月20日開かれた。本年度は88ＰＴＡから１、１５７点の作品が寄せられた。各部門の入賞者は12月１日（日）岩手県ＰＴＡ連合会年次表彰式で表彰される。

審査会は、文部科学省と公益社団法人日本ＰＴＡ全国協議会の「楽しい子育て全国キャンペーン」～親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール～三行詩コンクールの第一次選考審査を兼ねており、各部門の上位５点が推薦された。

【２０１３年度入賞作品の紹介】

最優秀賞（各部門１点）

〈小学生の部〉

◆花巻市立太田小学校　六年　寺澤（てらさわ）　和史（かずふみ）

父さんは　しかる役
母さんは　なだめ役
そしてぼくは　伸びる役

〈中学生の部〉

◆久慈市立長内中学校　三年　棚橋（たなはし）　笑美菜（えみな）

存在感の薄い我が父。母よりも小心な我が父。
優しすぎて損する我が父。たまに良いこと言う我が父。
なんだかんだで好き。…とか、絶対言えない。

〈一般の部〉

◆西和賀町立沢内中学校ＰＴＡ　有馬（ありま）　美保子（みほこ）

風呂場に響く暗唱の声
孫とじいの
「雨ニモマケズ」

優秀賞（各部門２点）

小学生の部

◆盛岡市立米内小学校　六年　向井（むかい）　恭葉（やすは）

我が家では、帰宅したとき、靴を必ずそろえます。時々忘れた人がいても、気付いた人が直します。翌朝、気持ち良いスタートです。

◆八幡平市立寄木小学校　六年　浅尾（あさお）　百那（ももな）

お父さんの寝ぞう、私の寝ぞう、妹の寝ぞう、みんな同じ格好だ。「やっぱり親子だなぁ。」とお母さん笑ってる。

中学生の部

◆西和賀町立沢内中学校　三年　髙橋（たかはし）　萌衣（もえ）

かあちゃんの
作ったご飯
星三つ

◆軽米町立晴山中学校　二年　小笠原（おがさわら）　義生（よしき）

母の背に追いついて
いろんな物が見えてきた
増えた白髪がよく見える
たくさんの心配ありがとう

一般の部

◆盛岡市立好摩小学校ＰＴＡ　岡部（おかべ）　史子（ふみこ）

なんで買い物歩いて行くの
健康のためだよ
本当はね、君と話す
時間がほしいから

◆久慈市立来内小学校ＰＴＡ　大上（おおかみ）　美保子（みほこ）

４年生まだまだ抱っこ出来た。
５年生、持ち上げて
地面から数センチ。
６年生、目線がもう、
すぐそこにある。

優良賞（各部門２点）

小学生の部

◆盛岡市立大慈寺小学校　四年　荒濱（あらはま）　遼太郎（りょうたろう）

「おはよう」
言ってみた
あ、今頭のスイッチが入った

◆盛岡市立好摩小学校　一年　工藤（くどう）　有加（ゆうか）

おとうとがおこると
けんかになる
おとうとがなくと
じぶんもなきたくなる
おとうとがわらうと
じぶんもわらいたくなる

中学生の部

◆滝沢村立柳沢中学校　二年　三浦（みうら）　秋聖（しゅうせい）

食卓を囲んで　笑顔の花が咲く
母の手料理
会話がスパイス

◆軽米町立小軽米中学校　三年　山下（やました）　美香（みか）

お風呂は家族の会話の場
悩み事を聞いてもらったり
励ましてもらって
私の心は笑いに変わる
涙に変わる
お風呂のおゆのように
あふれでた両親への
かんしゃの気持ち
「ありがとう」

一般の部

◆紫波町立日詰小学校ＰＴＡ　井出（いで）　仁美（ひとみ）

この２年で
住所が３回変わったね
津波前の高田でも、
避難した大船渡でも
変わらないのは、
ずっと親子一緒

◆西和賀町立沢内中学校ＰＴＡ　山田（やまだ）　ゆう子

知りたいな、
どんな人だろ、
ＬＩＮＥの中の君の友達

奨励賞（小・中・一般若干）

◆盛岡市立米内小学校　１年　正木　杏
◆盛岡市立好摩小学校　６年　金巻　武隆
◆八幡平市立田頭小学校　２年　遠藤　登希
◆花巻市立太田小学校　６年　平賀　麻莉
◆花巻市立太田小学校　６年　安藤　恵
◆久慈市立久慈湊小学校　５年　三上　颯太
◆北上市立飯豊中学校　１年　藤井　美波
◆西和賀町立沢内中学校　２年　深澤　柊也
◆釜石市立大平中学校　１年　南舘　璃音
◆一戸町立奥中山中学校　３年　櫻井美可子
◆盛岡市立厨川小学校ＰＴＡ　和山　敏秀
◆盛岡市立米内小学校ＰＴＡ　逢坂いね子
◆八幡平市立寄木小学校ＰＴＡ　中軽米　聡子
◆北上市立飯豊中学校ＰＴＡ　堀江　裕美
◆奥州市立江刺愛宕小学校ＰＴＡ　小山　誠

審査委員長講評

《優れていたところ》

・日常の何気ない場面を素材として、家族の間の心温まる関係がよく伝わってくる作品が揃っていた。
・家族が普段の生活や成長の大きな支えとなっていることに改めて気づかされる作品が多く見られた。
・親子で三行詩を作る学校の取り組みが見られ、作品づくりを通して家族の交流が図られている様子を伺うことができた。

《今後に期待すること》

・標語やスローガンとの違いを意識したうえで、具体的な体験や気づいたことを読み手に対してより効果的に伝えるような表現の仕方について工夫していくことが求められる。
・三行詩づくりを通して、親子や家族の関係を改めて見つめ直す機会が広がっていくことを期待する。

岩手県教育員会事務局
生涯学習文化課
社会教育主事　小岩　孝朗